

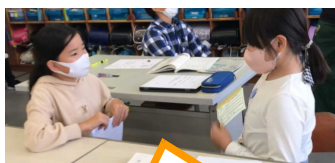
11月15日(火) 第1回石上小乗り入れ授業(国語) 14:05～

5年 授業者: 飯島 潤(石上小) 和田 悦子 村上 大輝(野崎中)

めあて: 古典の文章がすらすら読めるようになろう。



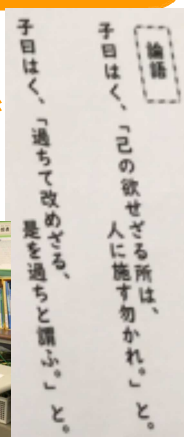
「向こうの格子に竹立てかけた。」「お綾や母親におさがせしてすみませんとおあやまり。」「東京特許許可局」など、古典の音読をするときには中学校でも早口言葉を行っていることを伝えたことで、児童は一生懸命に取り組んでいた。



「子曰く」「過ちて改めざる」「これをあやまちという、と」
2人で順番に言って完成させる活動

「こはく」??(児童)
「し、いわく、おのれのほっせざるところ、ひとにほどこすことなかれ、と」(教師)
「え!?!なに言ってんの?」(児童)

「子曰く」
「おのれのほっせざるところ」
「ひとにほどこすことなかれ、と」

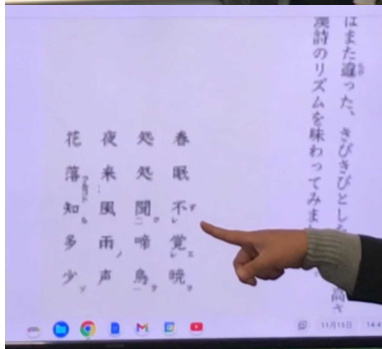


この中の全部の漢字じっさいにあるのかな?

「いう」の「う」が「ふ」って書いてある。



現代では使われていない漢字が使われていることがあるのが古典の特徴なんです。また、「謂ふ」となっていたら普通に読めば「いふ」と読んでしまいます。しかしこれを「いう」と読むのは、中学生1年生で学習する内容です。



中学2年と3年の教科書をクラスルームで見せ、5年生で学習した内容が難しい形で載っていることを知り、感嘆の声をあげていた。2500年の昔もことばが使われており、それが現代でも読まれているなど、言葉の素晴らしさを十分に伝えると共に歴史的な遣いや、漢字だけの文章も音読をしっかりとすることで読めるようになることを強調し、児童の古典への興味・関心が高まった。